

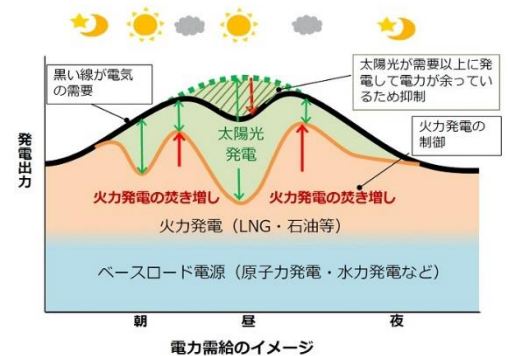
この夏の電力需給のひっ迫に備える（各家庭夏の節電要請）

今年3月に首都圏で供給電力量がギリギリで、あわや全面停電か？という事態がありました。

この時は、地震の影響により需要調整に使う火力発電所の運転停止、降雪が予想されるなど気温の低下が原因でしたが、実はこの全面停電の懸念は今も全国的に続いており、この夏は、その供給増対策の道筋が見いだせない中、需要側についてもかなり強力な節電要請が政府から出されました。（2017年以降で最も厳しい予備率）

なお、この冬は夏以上にひっ迫するとの予想も出ています。

つきましては、各部署においてもそうですが、各家庭においても上手に節電を行い大規模停電が起きさせないようにしましょう。



2022. 03. 22 地震により14基の火力発電所停止と、寒波によりあわや首都圏で大停電の瀬戸際。

2022年夏と冬に供給不足懸念。

【家庭の電力料金上昇幅とその対策】

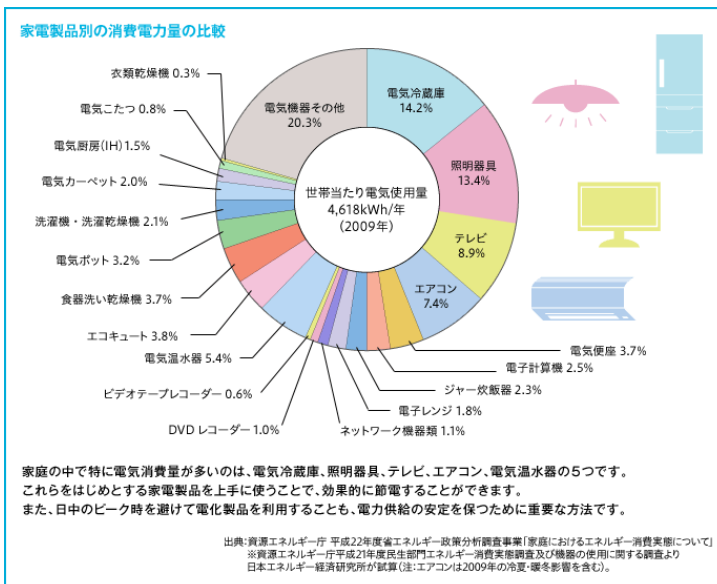
家庭の電力料金は、燃料費と再エネ賦課金の影響により、今年5月までのこの1年間に25%も値上がりしています。（下図参照）



しかしながら、右図の「節電要請を踏まえた家庭向けの対策例」を上手に実行できれば

節電効果は21.1%と5月までの値上がり影響の84%は相殺することが可能です。

また、下図は家電製品別の消費電力量になります。日中のピーク時を避けて電化製品を利用することも電力供給の安定化に繋がります。



節電要請をふまえた家庭向けの対策の例

経済産業省の資料から。節電効果はピーク時の家庭の電力使用量に対する節電効果の概算値

エアコン	室温を28度に26度→28度にした場合	節電効果 6.0%
	すだれやカーテンなどを活用して日差しを和らげる	4.3%
	フィルターの清掃は2週間に1回	2.1%
照明	不要な照明は消す	3.3%
	明るさを下げる	1.1%
冷蔵庫	設定を「強」から「中」に。扉の開閉時間は短く。食品は詰め込み過ぎない	1.8%
テレビ	省エネモードに設定。画面の輝度は下げる	0.8%
温水洗浄便座	温水オフ機能などの利用。ない場合はプラグを抜く	0.5%
待機電力	リモコンの電源ではなく、本体の主電源を切る。長時間使わない場合はプラグを抜く	0.8%
洗濯機	洗濯は容量の80%を目安にまとめて洗いを	0.2%
乾燥機	衣類乾燥機や浴室乾燥機は部屋干しと併用、短時間で	0.2%

今後の取り組みとして、“節電すればポイントが溜る”制度の導入も検討されているようです。